

## 日中庭園における写し手法の変遷に関する研究

A Study on Evolutions of Tracing Techniques at  
Japanese Garden and Chinese Garden○徐歆<sup>1</sup>, 天野光一<sup>2</sup>, 阿部貴弘<sup>2</sup>, 西山孝樹<sup>2</sup>\*Xu Huan<sup>1</sup>, Koichi Amano<sup>2</sup>, Takahiro Abe<sup>2</sup>, Takaki Nishiyama<sup>2</sup>

Abstract: The source of the garden in Japan and China is common, but it is thought that the landscape gardening technique developed originally in each country. However, in Japan and China, a difference is seen in the space of the garden where the same landscape gardening technique was used for. Therefore, in this study, the landscape gardening technique called a common "reproduction" in Japan and China was surveyed. I gathered up the change how you had been taken in to the garden space where a concept of "copying" was really made in Japan and a garden of China. And this study is final in clarifying a difference of the garden space in Japan and China; is intended.

## 1. はじめに

日本と中国における庭園の源流は共通しているが、造園手法はそれぞれの国で独自に発展してきたと考えられる。

中国の本格的な庭園は、紀元前 200 年頃の秦代から形成されていき、今日まで 2,000 年以上もの歴史を持ち合わせている。その後、690 年の唐代からは当時の造園技術が海外へ伝えられるようになった。先述した唐の時代以降、日本においても中国の造園技術が深く影響し、浸透していったと考えられる。しかし、日本と中国では、同じ造園手法が用いられた庭園の空間においても、差異がみられる。

そこで日本と中国の庭園では、それぞれの造園手法がどのように発展し、日本庭園は中国からどのような影響を受けてきたのかに着目し、研究を行った。

## 2. 研究方法

本研究では、名勝や名所を庭園内へうつす手法、「写し」に関する通史を整理した。主として、Table.1 に示した佐藤昌著の『中国造園史上巻』を用いて、各時代の「写し」に関する記述を抽出し、その分類を試みた。

## 3. 研究結果

## 3-1. 中国の「写し」が用いられた庭園の通史

Table.2 に示したように、隋代(581 年~619 年)から明代(1368~1644 年)にかけて、「山」や「池」などの自然物を対象とした「自然写し」が多いことが明らかとなった。特に秦代(紀元前 221~前 207 年)に初めて作られた「一池三山」の様式は、数多くの庭園に継承されていった。また、それらは想像や物語上の場所、神仙が住むところを「写し」ており、実物の風景や建

築物等を庭園内に写したものではなかったとみられる。

そのことから、本研究では実際に存在する町並みや建築、自然名勝といった「名所写し」を行っている庭園に着目することとした。その結果、Table.2 に示した唐、明、清の各時代には先の「写し」が行われているいくつかの庭園が存在していた。

特に、清代以降の庭園においては、皇室庭園に「写し」の手法が多く用いられていたことが通史をまとめると明らかとなった。「写し」の手法として重要とみられることから、清の時代以降に着目した。

そして、Table.2 に示した庭園の中で、特に「写し」の手法が文献や図面等によって、具体的に明らかにすることができる「避暑山荘」、「円明園」、「頤和園」の 3 庭園に着目し、整理することとした。

## 3-2. 抽出した庭園における「写し」の手法

整理した「写し」が用いられた「避暑山荘」、「円明園」、「頤和園」の 3 庭園について、その手法を分類した。それらの写しは合計で 44 箇所を抽出することができ、Table.3 に示した(a)~(h)の 8 種類に分類した。

Table.1 The times when "copying" in China which studied it

主要文献	研究対象とした時代
・田中淡 「中国造園史における初期的 風格と江南庭園遺構」, 東方学 報(京都) 62 冊 京都大学人 文学研究所, 1990 年	秦(紀元前 221~ 前 207 年)   唐(618 年~ 907 年) 前漢(紀元前 202 年~ 9 年)   南宋(1127 年~ 1279 年)
・佐藤昌 「中国造園史上中下巻」, 日本 公園緑地協会, 1991 年	後漢(25 年~220 年)   金(1115 年~ 1234 年) 南北朝・北魏 (386 年~ 534 年)
・木津雅代 「中国の庭園 山水の錬金 術」, 東京堂出版社, 1994 年	隋(581 年~619 年)   明(1368 年~ 1644 年)
・青羽光夫 「中国庭園」, 誠文堂新光社, 1998 年	清(1636 年~ 1912 年)

Table.2 Garden list of "shooting" is used in each era

時代	庭園名称	「写し」手法	時代	庭園名称	「写し」手法
秦 (紀元前 221 ～前 207 年)	・蘭池宮	物語	南宋 (1127 年～ 1279 年)	・八仙園 ・富景園 ・放亀亭	自然写し + 名所写し
前漢 (紀元前 202～ 9 年)	・建章宮 ・兔園	物語	金 (1115 年～ 1234 年)	・万寧宮 ・北海の宮苑	自然写し + 名所写し
後漢 (25 年～ 220 年)	・袁広漢園 ・梁冀園	自然写し	明 (1368 年～ 1644 年)	・西苑 ・勺園 ・漫園 ・万寿寺行宮 ・影園	自然写し + 名所写し
南北朝 (386 年～ 534 年)	・張倫園	自然 +名所写し	清 (1636 年～ 1912 年)	・北海公園 ・円明園 ・避暑山荘 ・恭王府 ・乾隆花園 ・個園 ・怡園 ・西苑 ・静明園 ・東園 ・愚園	名所写しは 康熙帝時代 (1661 年頃) から南巡に より急増し た。
隋 (581 年～ 619 年)	・西苑	自然写し			
唐 (618 年～ 907 年)	・大明宮 ・安樂公主 西荘 ・王維園 ・陶光苑 ・神都苑 ・平泉荘 ・環溪 ・叢春園	自然写し + 名所写し			

(1) 避暑山荘

避暑山荘は、北京の北東約 250km に位置する。1703 年に康熙帝が造営を開始し、89 年後の乾隆帝の時代に完成したといわれる。山荘の面積は 564 万 m<sup>2</sup>、建物は 110 余、周囲は総延長 10km もの塀で囲まれている。そのなかで「写し」が行われたのは 17 箇所であった。

(2) 円明園

円明園は、北京北西の郊外に存在していた。清の康熙帝により 1709 年から建造されたとされる。しかしな

がら、1860 年の第二次アヘン戦争の際に破壊され廃墟と化したという。円明園における「写し」は合計 18 箇所であった。

(3) 頤和園

中国、北京市の北西約 10km、清朝西太后の離宮で知られる名園である。頤和園は万寿山とその南麓にある人造湖、昆明湖の総称で、周囲が約 8km である。鮮やかな色彩で彩られた多くの楼閣、長廊など絶好の景勝地となっている。円明園における「写し」は合計 9 箇所であった。

4. まとめ

本研究では、中国における「写し」の手法を 3 庭園の事例を中心にまとめた。それらの手法には、様々な写し方が存在していたことを明らかにし、日本の庭園における「写し」の手法も同様に分類、日中の庭園について比較していきたい。

5. 参考文献

- [1] 佐藤昌：「中国造園史 上中下」日本公園緑地協会 1991 年。
- [2] 汪菊淵：「中国古代園林史 上下」中国建築工業出版 2012 年。
- [3] 楊鴻勳：「江南園林論」-中国古典造園芸術研究 1994 年。
- [4] 天津大学建築系、承德市文物局：「承德古建築：避暑山荘和外八廟」中国建築工業出版社 1982 年。
- [5] 郭黛姮：「远逝的辉煌：圆明园建筑园林研究与保护」上海科学技术出版社 2009 年。
- [6] 田中淡：「東方学報（京都）62 冊」-「中国造園史における初期の風格と江南庭園遺構」京都大学人文科学研究所 1990 年。

Table.3 Category List of 3 garden of copy technique was established since the Qing era

写し手法	庭園	写しの対象となった名所	庭園内に写された名所	写し手法	庭園	写しの対象となった名所	庭園内に写された名所
<b>a) 自然名勝写し</b> 中国国内の自然名勝を庭園内に写しているもの	・「避暑山荘」(2 箇所) ・「円明園」(0 箇所) ・「頤和園」(0 箇所)	 Figure 3 万松嶺	 Figure 2. 万壑松風	<b>e) 機能写し</b> 「書庫」といった書物を保管するという機能を庭園に写しているもの	・「避暑山荘」(2 箇所) ・「円明園」(1 箇所) ・「頤和園」(2 箇所)	 Figure 9 天一閣	 Figure 10 天津閣
<b>b) アクセス写し</b> ある名所や名勝を訪ねる際、船に乗るなどのアクセス手法を庭園内にも写しているもの	・「避暑山荘」(4 箇所) ・「円明園」(8 箇所) ・「頤和園」(2 箇所)	 Figure 3 文園獅子林	 Figure 4 獅子林	<b>f) 建築様式の写し</b> ある建築の様式などを参考にして、庭園内に新しく建造されたもの	・「避暑山荘」(4 箇所) ・「円明園」(2 箇所) ・「頤和園」(2 箇所)	 Figure 11 報恩寺	 Figure 12 六和塔
<b>c) 配置写し</b> 名所を写す際に、元の建築形態や空間構造を類似させて写しているもの	・「避暑山荘」(4 箇所) ・「円明園」(2 箇所) ・「頤和園」(2 箇所)	 Figure 5 金山寺	 Figure 6 金山	<b>g) 意味写し</b> ある場所を作った意図や意味が面白く、庭園内にもその意に基づいて似たようなものを作ること	・「避暑山荘」(1 箇所) ・「円明園」(1 箇所) ・「頤和園」(0 箇所)	 Figure 14 烟雨楼(平面図)	 Figure 15 烟雨楼(平面図)
<b>d) 風景観賞型の写し</b> ある美しい風景を眺める行為「観賞の型」を写したのもの	・「避暑山荘」(0 箇所) ・「円明園」(3 箇所) ・「避暑山荘」(0 箇所)	 Figure 7 平湖秋月	 Figure 8 西湖の平湖秋月	<b>h) 街の生活写し</b> 時の皇帝が模擬のまちで買い物を楽しむため、特定の町並みを庭園内に写した	・「避暑山荘」(0 箇所) ・「円明園」(1 箇所) ・「頤和園」(1 箇所)	 Figure 16 蘇州の町並み	 Figure 17 舍衛城